

横浜市立南が丘中学校 令和元年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>○「すべての教育活動を子どもの成長と将来の幸福のために」を基本理念とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの個性や能力を理解し、育てたい資質や能力を明確にした教育活動を行うことで、その伸長を図ることに努めます。 ・子どもが学び、育つための教育活動の展開や教育環境づくりに努め、おもしろい、互いを理解する努力、助け合いなど、社会で生きていくために必要な資質や能力を育てます。 ・全教職員が学校経営に主体的に参画し、教職員一人ひとりが自らの特性や能力を生かすとともに、相互の連携や協力、関与により、有機的に機能する組織にします。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	①基礎・基本の定着を図り、自ら学んでいく姿勢を育てる。 ②指導法の工夫や改善に努め、「わかる授業」を展開する。 ③教科相談や学習相談の充実を図るとともに、校内や小中一貫教育推進ブロックでの授業研究を行うことで、授業改善に努める。
担当	学習指導部

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

現3年、2年とも学力は昨年より数ポイント上昇し、市の平均に近い状況である。

学習意識についても学校全体として向上している。学力層Dの生徒が少し減少し、学力層Cへと移行しており、基礎・基本を徹底させる授業が少しずつ功を奏してきていると思われる。

学習意識も生活意識も向上している今、そのやる気を失わないような授業の工夫、さらなる学力向上の施策を行う必要がある。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：現3年は、どの観点も向上しているが、書くの観点が弱い。現2年は、どの観点も市の平均に近く、書くの観点がやや強い。
- 社会科：現3年は、学習意欲も高くどの観点も向上している。現2年は、学習意識は高いが、技能の観点が弱い。
- 数学科：現3年は、知識・理解が下がり気味だが、見方・考え方や数学的な技能は向上した。現2年は、どの観点も市の平均に近く、知識・理解の観点はやや強い。
- 理科：現3年は、学習意識が高まり、知識・理解や思考・表現は市の平均をわずかに上回っている。現2年は、知識・理解の観点はやや強いが、技能の観点が弱い。
- 外国語科：現3年は、学習意欲も高まり、どの観点も向上した。現2年は、どの観点も市の平均に近く、学習意欲は高い。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学力は昨年より向上し、市平均に近くなってきている。学力層はD層の生徒が努力し、C層へと変わってきているが、C層の生徒はまだ多く、D層の生徒も減少はしたがまだ多くいる。基礎・基本を徹底し、A・B層にも手厚い指導が必要となる。また、自己肯定感が低い生徒が多く、自信を持たせていくことも必要である。生活面では、毎日朝食を摂り、一日の運動量が多く、自らあいさつをする生徒が多くなった。これからも良い習慣を続けてできるように指導していく必要がある。

3 令和元年度 学年・教科等としての具体的取組

国語

- 基礎的・基本的な内容を計画的に反復学習させるとともに自らの学習状況を把握できるようにする。
- 学習意欲を高めるために、実生活に結び付いた言語活動の設定やグループ活動を工夫する。

社会

- 単元ごとに学習状況を把握する小テストを行い、スモールステップによる知識の定着を図る。
- ノートを活用した授業を行い、使い方やまとめ方を工夫させたり復習の反復を促したりして、学習への意欲を育む。

数学

- 授業展開や課題を工夫し、個に応じた指導を心がける。
- 数学的活動を重視し、身近な生活と関連付けた学習を意識した授業の展開をする。

理科

- 基礎・基本を定着させるために、反復学習を計画的に行う。
- 予想や思考を行う場面を積極的に設け、考える活動をしっかりと行う。

音楽

- 個に応じた指導に努め授業の充実を図る。
- 音楽活動を通して、意欲、興味関心を高め表現力の向上をめざす。

美術

- 対象物を観察し、しっかりと形をとらえたり、心で感じたことを色やイメージの中に取り入れ造形活動に取り組める教材を提供する。
- 鑑賞を通して、知識と感性を育てる。

技術・家庭

- 持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し、実践的な態度を育てる。
- よりよい生活の実現に向けて、課題を設定し、自ら解決していく力の育成を図る。

外国語

- それぞれの単元を通して、生徒に身に付けさせる力を明確にしながらかな学力を育てる。
- 自分の思いや考えなどを習った文法を使って書いたり、話したりできるような授業の展開を心がける。

特別活動

- コミュニケーション能力を育み、よりよい人間関係が築けるように、行事活動の充実を図る。
- 話し合い活動等を通じて、相手の考えや思いを尊重し、自分の考えや思いを伝えようとする態度を育てる。

総合的な学習の時間

- 行事を通して仲間の良さを認め、豊かな人間関係を築き、目標に向けて努力する姿勢を育てる。
- 校外学習を通して、課題解決のため、仲間と協働して問題解決しようとする態度を育てる。また、目的地での体験活動を通して、横浜の良さを認識する。

個別支援学級

- 学級種別や個別の指導計画に基づき、授業形態や学習集団の構成を工夫し、個々の特性に応じた指導の充実を図る。